

シャトル型テキストコミュニケーションツールに実装した メッセージ装飾機能の評価と課題

Evaluation and problem about the message decoration function that implemented to the shuttle type text communication tool

三池 克明^{*1}, 斐品 正照^{*2}

Katsuaki MIIKE^{*1}, Masateru HISHINA^{*2}

^{*1}佐久大学信州短期大学部, ^{*2}東京国際大学

^{*1}Department of Shinshu Junior College at Saku University, ^{*2}Tokyo International University

Email: k-miike@shintan.ac.jp, hishina@tiu.ac.jp

あらまし: 受講生と教員の二者間のシャトル型テキストコミュニケーションツールである iConversation には, メッセージを作成する際に, 文字色や大きさの設定, 絵文字の挿入といった非言語情報を付加できる装飾機能を実装している. 本研究は, このツール上での非言語情報の実態解明や, その支援方法の模索を目指す. 本稿では, 実際に作成されたメッセージを分析して, 装飾機能に関する評価と今後の課題について述べる.

キーワード: シャトル型テキストコミュニケーション, ウェブアプリケーション, 非言語情報

1. はじめに

受講生と教員の二者間のシャトル型テキストコミュニケーションツールである iConversation (以下, iCon と記す) では, メッセージを作成する際に文字色や大きさの設定, 絵文字の挿入といった非言語情報を付加できる装飾機能を実装している. 本研究ではこれまでに, iCon の使用において受講生はテキストメッセージに文字色や絵文字などの非言語情報を付加する必要性を感じており, 実際に非言語情報を付加していたことを確認している⁽¹⁾. 本研究の一部では, このツール上での非言語情報の実態解明や, その支援方法の模索を目指す. 本稿では, 実際に作成されたテキストメッセージを分析して, 装飾機能に関する評価と今後の課題について述べる.

2. iConversation について

iCon は毎回の授業にて教員と受講生が表 1 に示すサイクルでテキストコミュニケーションを行う. また受講生が作成するテキストメッセージに非言語情報の付加を支援するメッセージ装飾機能を図 1 に示すように実装しているが, 一つ一つの機能は筆者らが推論して決定したものであり, その評価を試みていない.

3. メッセージ装飾機能の評価

先行研究から受講生は非言語情報をテキストメッセージに付加することは推測できる. もし iCon のメッセージ装飾機能が実装されていない場合, 受講生は文字絵など文字の組合せを用いて非言語情報をテキストメッセージに付加すると考えられる. その状況において, メッセージ装飾機能を実装した場合, これまで文字の組合せによる非言語情報の表現の一部は装飾機能のいずれかに置き換わる可能性が考えられる. このとき, 置き換わっていない非言語情報の表現があれば, それは装飾機能に実装すべき表現と

判断できると筆者らは考えた.

3.1 分析対象について

そこで 2012 年度～2014 年度に A 大学にて iCon を使用した 4 科目 8 クラスのうち, 装飾機能の未実装バージョンと実装バージョンの使用経験がある 2 科目 2 クラスの受講生が作成したメッセージ 721 件を分析した. 科目の種類はデータ分析を指導する科目

表 1 授業における iCon 使用のサイクル

タイミング	内容(太字部で iCon を使用)
授業中	教員が授業を実施して受講生が参加する
授業終了間際	1 人ひとりの受講生が教員宛にテキストメッセージと授業に対する印象値(7 件法)を入力し送信する
授業と授業の間	教員は全受講生から送信されたテキストメッセージと印象値を個別に読み, これらを踏まえて, 受講生一人ひとりに個別の返答用のテキストメッセージを入力し送信する
授業開始時	1 人ひとりの受講生が教員から個別に送信された テキストメッセージを読む
授業中	教員が授業を実施して受講生が参加する

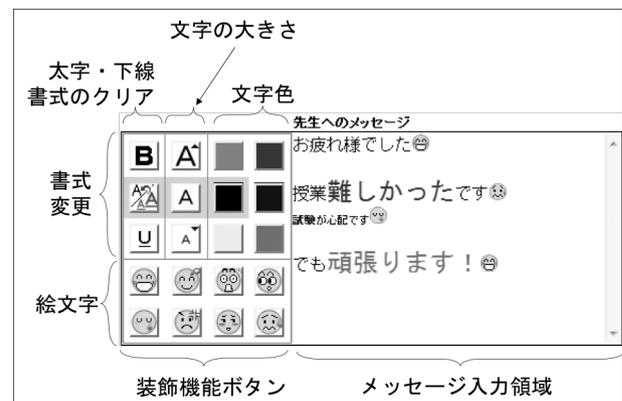


図 1 メッセージ装飾機能を実装したメッセージ作成 I/F

